



写真 大山祇神社(愛媛県・大三島)の楠

変化に対応する

西村 幸三

コロナウイルス危機

コロナウイルス問題で、世界中に深刻な健康への危機、さらには経済危機が起きています。緊急事態宣言が4月16日には全都道府県に発令されました。

国民すべて影響を受けない人がいない、世界中逃げるところはないというのが、今回の危機の特別なところかと思えます。

戦争が起きたのと同じ、と仰る方もいます。第二次世界大戦が終わってから75年、ほとんど誰も経験したことのない事態が起きている中、正解のない答えを見つけて進んでいかなければいけません。

みなさまとともに弊事務所も知恵を絞り汗をかいてこの危機を乗り越えたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

肺炎と喫煙

コロナウイルスは、もともと風邪のウイルスで、変異を繰り返し、年に何回もかかる(抗体ができて)と言われてきたウイルスです。

2003年には新型肺炎を引き起こすSARS コロナウイルスが発生しましたが、世界中に広がる前に撲滅されました。今回のSARS-CoV2ウイルスが引き起こすCOVID-19による肺炎はもはや世界中に拡がり、冷静にみれば残念ながらもはや撲滅は不可能と考えられます。

日本人の死因の3位が肺炎、毎年11万人の方がお亡くなりになります。多いのが低温乾燥する冬場にお年寄りが風邪やインフルエンザから悪化してです。新型コロナウイルスによって、その要因が増えることになります。

一方で若者も高齢者も感染しても全く無自覚か風邪程度の認識で終わる方も非常に多いです。

致死率は2%とも、殆ど軽症の人が多いので0.1~0.2パーセントとも言われています。

リスクの計量化は、とても重要なのですが、これもとても確定できる段階ではなく、時間を追って医学的エビデンスが出そろって初めてわかってくると思います。

それまでは、強めの対策を採らざるを得ないというのが、今回の緊急事態宣言に基づく強烈的な自粛要請となっています。

糖尿病など持病のある方が重症化しやすいとされています。

また、喫煙者はコロナ肺炎を起こしやすい、重症化しやすいともいわれています。

インフルエンザでも喫煙者が重症化する割合がより高いとの研究がありますので、当然かと思えます。

喫煙するという行為は、肺に難分解性の有害な煤塵という異物を送り続ける行為ですから、当然、普段は見えないながら慢性的炎症を引き起こし続けます。

今回のコロナウイルス問題で、喫煙者は決定的に減少するだろうと思いません。

西村法律事務所

ニュース

〒604-8161 京都市中京区烏丸通三条下ル

大同生命京都ビル2階

Tel:075-253-2035 Fax:075-253-2135

Web : <http://lawfield.com/>

Blog : <http://blog.lawfield.com/>

発行：令和2年4月

健康増進法が4月1日に施行され、小規模飲食店以外は全面禁煙になりましたが、もはや、たばこの煙がくゆるような空間を許容できないという人の割合が圧倒的に増えてしまったであろうと思います。

普段の健康の維持

各臓器のガンで、慢性の炎症がガン因子になっているという因果関係については、医学的エビデンスが数々あります。

エビデンスの有無や多寡はありますが、ポリフェノールやビタミンCその他酸化作用のある食材が注目されるのも、理にかなっている部分があります(サプリメントには賛成しません)。

私が日常的に常食する食材に意識して採り入れているものに、①ショウガ②玄米(家庭用精米機でその都度3分づき)③納豆(大豆)④アーモンド⑤ブラックチョコレート⑥キノコ⑦漬物⑧ブロッコリー⑨トマト⑩タマネギなどの野菜⑪クエン酸⑫ビタミンC粉末(アスコルビン酸)、などがあります。高価なサプリは基本取りません。チョコラBBとマルチビタミンをときどき取るくらいでしょうか。

運動は、最近はジムでウォーキングだったのですがコロナで行けなくなりました。家で開脚ストレッチ(四股)兼イチロ一式開脚肩入れをよくやっています。

自然に浸るため散歩したり寺社巡りが、心身の健康維持にはとてもよいと実感しますがそれも外出自粛徹底と言われ厳しくなってきました。

経営者のみなさまは誰もがそうだと思いますが、このコロナウイルス問題で、スタッフの健康、心の不安が気になり、また、事業の行く末も不安で、気持ちが押しつぶされかねないようなこともあると

思います。経営者がこんなときでも自分の心身の健康を維持するのはもはや自分のためではない部分が大きいように思います。

触るモノの清掃消毒を

コロナウイルスは、人から人にうつる、といわれてきました。しかし、実際は、人からモノにウイルスが付着してそのモノを人が触ってうつることが多い、だからマスクだけしていたってダメなんだ、ということが、かなり以前から言われています。

が、どこまで世間にその意味が理解されているのでしょうか。

夜の接待されるラウンジで、グラスの酒を作ってもらい、乾き物のおつまみを手から手に渡される、ホステスがあちらの席こちらの席に移って回る。こんな行為が簡単にクラスターを発生させていると思われまます。

カフェやレストランでフロアの方が空のグラスに水をついで回る。ドアノブを持って開け閉めする。エレベーターや自販機のスイッチやボタンを押す。現金やクレジットカードを受け渡す。トイレの水を流し蛇口をひねる。ペンや書類。靴の裏についたホコリを運ぶ。

介護施設や自立支援施設では、利用者が手すりをはじめあちこちを触っています。支援員は支援のためそれに触ったり介添えて次々とみなさんの世話をし、ドアの開閉もし、備品や書類も回し、あちこちの部屋を靴を履いて歩いて回ります。

病院でも似た状況でしょう。

施設内感染・院内感染は、空気感染に限らず、人→モノ→人の感染が多いと考えられます。

保健所は感染症法に基づいて消毒指示を出しますが、「モノ」の消毒を指示します。

ノロウイルスは数十個でも食中毒を起こしますが、飲食店はその防止のために調理しながらでも始終、見事な手際でダスターなどで消毒清掃されています。

生活衛生営業である飲食店など向けに公益財団法人 全国生活衛生営業指導センターが作成した「みんなのできるSARS対策(マニュアルの要約版)」(<http://www.seiei.or.jp/db-cho/index.html>)の内容を紹介致します。

SARS コロナウイルスの清掃・消毒においては、居間等の用品その他のものは「台所用合成洗剤の希釈液(0.5~1%)に浸した雑巾で二度拭きする」とあります。

手指はアルコール 70~80%でとありますが、モノの対 SARS 消毒は中性洗剤の界面活性剤でやるのが以前からのスタンダードです。

昨今、COVID-19(SARS CoV2 ウィルス)でも検証が始まっていると言うことですが、既に 2003 年の時点で国立感染症研究所が SARS コロナウイルスは中性洗剤の界面活性剤で無効化できると検証しておりますが、(http://www.med.oita-u.ac.jp/infectnet/SARS/SARS_report_00567.html)現時点でもエビデンス十分と言ってよいと思います。

飲食店、特に生食材を扱う店では、次亜塩素酸希釈液で、日常的にキッチンのあちこちを拭いています。ノロウイルスはじめ食中毒防止のためです。

飲食店でない事業所は、食中毒のノロウイルスでなく、コロナウイルスですから、中性洗剤の希釈液を作って飲食店と同じように拭き掃除をマメにする、というイメージを持ってばよいわけです。

中性洗剤はさほど手が荒れることもありません。タッパーに中性洗剤希釈液を作りそこに浸したダスターを事業所のあちこちに置いて、オフィス・店舗・施設等の、複数の人が触るテーブル・ドアノブ・備品・トイレなどあちらこちらをしょっちゅう拭くように習慣付けする、ということとはそう難しいことではありません。

こういったことを各事業者が励行するだけで、ずいぶん感染防止になると思います。

それでも手につくことは防げないので、手洗いを励行し、手で顔を触らない。

このように、マスクだけでは意味が無いわけではないが、手洗いしないと意味が乏しいし、手洗いしても、複数の人が触るモノに付着したウイルスをマメに拭き取ないとイタチごっこということです。事業所で感染予防したければ、もっと中性洗剤で拭き掃除しましょう、というのが、生活衛生営業の衛生常識からみたスタンダードだと思います。

コロナ便乗マスク送りつけ商法

コロナウイルス騒動に乗じてマスク送りつけ商法が出てきています。

消費者センターやマスコミでも採り上げられ始めています。

私のクライアントの自宅に、中国の深圳から国際郵便(中国郵政)でマスク2パックが送りつけてこられました。身内や関係者にそんなものを送ってくることはないため、送りつけ商法とみられます。送り状にはクライアントの自宅電話番号まで書いてありました。

送りつけ商法への対抗策は、仮に電話連絡があっても、「買わない。引き取りに来い」ということを徹底して繰り返すことです。こちらから送り返す必要はありません。そう相手に言い続けることです。

特定商取引法59条(ネガティブ・オプション)という法律があります。

送りつけられた側が送りつけた側に、断る、とはっきりそう言ってから7日経ったら、相手はマスクを引き取りに来る権利も失います。

また購入を承諾しないまま14日が経過しても同じようにマスクを引き取りに来る権利を失います。

なお、個人事業主・営利法人宛てに送られてきた場合は、特定商取引法の適用はないので、単純にそれが正解とは言えませんので要注意ですが、ここでは割愛します。

経済活動の復活を願って

弊事務所の場合、ほとんどの業種のクライアントから相談がありませんところ、入ってくる話も千差万別です。

宿泊・観光・飲食・レジャー業界は、本当に苦しんでいます。このような自粛が3か月・半年・年単位で続けば、体力のないところからお手上げになり、当然ながら雇用も維持できません。

私は、新型コロナウイルスは、世界レベルでみても、もう撲滅は無理で、蔓延スピードを遅らせ、抗体や治療法やワクチンにより折り合いを付けるしかなく、長期的に存在する前提で経済活動を営むよう、社会全体がいずれ切り替わらざるを得ないだろうと見込んでいます。

ただ、高齢者や高リスク対象者にとっては生命にかかわることであって、リスクの計量化が医学的エビデンスで証明できていない以上、厳重な警戒を緩められません。

周囲にそういう方がおられる方にとっては、最悪の事態はとて受け入れがたいために、徹底的な経済活動の停止を叫ぶ方向に、マスコミや社会が振れやすい状況です。

なにより医療現場の方々は、一線で、命を賭けておられ、徹底的な感染抑制をうたえられています。

ただ、必要な医療も、全ての働く人たちの経済活動があつて、支えられて、はじめて成り立っています。

大小問わず企業や自営業者、そこで働く人たちの活動を停止させればいずれ破綻し、次には医療に回せるお金がなくなり、中長期的には医療も崩壊します。イタリアは経済で窮したことで今回

の医療体制の削減そして崩壊を招いたとも言われています。

経済的破滅から絶望して亡くなる方も出かねません。

ジレンマであり、政治的選択はとても困難です。

何もかも人と人の接触を7割8割減らすといった経済活動抑制は、早晚、組み直してメリハリをつけて再開していくしかないだろうと思われまます。

ただ、経済活動の自粛を緩めても、完全に経済環境は元には戻らず、産業構造が変わっていく可能性は高い、とも思います。

自営業者にも、無理をすべきでない方もおられます。

自営業者全体が高齢化して後継者難にも直面している中、高齢の自営業者の方であれば、働いて接客する事自体に不安があったり、コロナウイルスでの売上激減の中、無理に借入を増やして乗り越えても、将来経済がV字回復して利益で借入を返済していくことが見込めるかといえかなり不透明であるという方もいると思います。

1ヶ月の売上ゼロを取り戻すのには利益率10%でも10ヶ月かかります。また売上がすぐに戻るとは限りません。

それならと廃業して従業員を解雇して店じまいされることを選んでも、なんの不思議ありませんし、決して責められるべきでもありません。

それも勇気ある一つの選択だと思います。

なにしろ、今は、戦争か、それ以上の環境変化が世界中で起きています。

観光・飲食・レジャー・文化産業といった業界に焦点が当たりがちです。

しかし、人の移動や接触なしには成り立たない(オンラインではサービス提供不可能な)ようなサービス産業が、ほぼ全て極端な売上減を強いられています。

大企業はもちろん、中小零細事業者、フリーランスも多く含まれます。

そういった事業者の売上が日本経済に占める割合は実に何割にもなっています。

これらの業態は周辺産業も巨大で、直接間接に各業界にとって重要な顧客ですから、あらゆる業界の経営者や従業員に、程度や時間差はあっても、影響が波及していきます。

それだけに、感染抑制と同時に、経済活動の再開も、国民全体にとって、急務です。

施策や対応は自分で調べる

戦争の時代に突入したのだと考えると、やむをえないかもしれませんが、世界中の政府が、右往左往し、しょっちゅう方針が変更され、混乱しているとも見えます。

日本政府のこれまでの極端なリフレ政策を非難していた識者もすっかりなりを潜めてしまい、逆に巨額の現金給付などをマスコミが日々ワイドショーなどで煽っているような状況です。

が、マスコミが、各事業者向けに矢継ぎ早に出されている、国の施策を、きちんとフォローしてくれているかという点、特にテレビは、からきし、できていないと感じます。

テレビなど見ず、その時間で自分でWebで調べるしかないくらいに、日々新たな施策が出てきています。

私も、始終、いろんなニュースソースにあたって、企業向けのコロナウイルス対策に役立つことがないか調べて、クライアントへのアドバイスに対応しています。

どんなところで調べているかと言えば、例えば、経済産業省の「新型コロナウイルス感染症関連」Webサイトや、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症について」が、国の施策の紹介としてはやはりまとまっています。

京都府や京都市(都道府県・政令指定都市・市町村)のWebでの情報はやはりかなり網羅的です。

また、商工会議所のWebサイトの情報も、読んでいてかなりわかりやすいです。

毎日膨大な情報が更新されています。しかし、量が多いです。量に圧倒されてしまいそうになります。正直読み切れません。ポイントがどこかわからない。

意外にも役立つのは、国会議員や府市会議員や、士業、医師などのしかるべき方のSNS発信です。フォローしていると、さすが情報が早いし的確なものが多いです。

ただ府市や会議所こういったところの相談窓口には電話してもなかなか繋がらないだろうと思われまます。

つまり、かなりの部分は、Webで自分で情報をキャッチするしかありません。

助成金などの情報も含め、いかにすぐにキャッチし、すぐに動けるかどうかで、変わってくるように思います。

止まらず動こう！考えよう！

最近のクライアントからのご相談は、従業員との雇用問題、資金繰、営業自粛休業すべきかせざるべきかどの程度すべきか、コロナ感染者が出た場合の営業自粛リスクを未然に抑える対応などが多く、それに国や政府の施策もからんでの質問が目立ちます。

事業者のみなさまは、全く前例もない事態のなか、答えのない中で、答えを出そうと、知恵を振り絞りながら、動いておられます。

既存の知識で対応できることも多いですが、すぐにWebで最新情報を調べて、一緒に考えて、お答えしているケースも多いです。

緊急事態宣言が発令されて、事業所が休業に入るところが続出しています。

が、そういった休業の間も、調べて、考えて、動けることは動いていくべきです。そうしているうちは、まだ、気持ちも前を向きますし、希望があります。

stay homeであっても、体がなまらないうちに、人の少ない場所への散歩や、室内でもできる運動をして、適度に足腰を鍛えて、健康的な気晴らしをしましょう。

立ち止まって悩むより、調べて、考えて、動くことがとても大切だと思います。

心の健康、うつ予防はとても大事です。読書、昔の映画をネットなどで鑑賞。ゲームでもいいでしょう。

しかし京都市図書館も、ネットで予約してなら、受付で本は借り出せていたが、緊急事態宣言を受けて全面休館。

いけないと思うのは、テレビです。特に朝や昼間のワイドショーです。

情報としての価値は低く、批判や煽りが大半で、見ていると不安や怒りや苛立ちに流され、自分がどう動くべきかの解決を示す指針にはとてもならないように思います。

大事な情報は、国・自治体・商工会議所・業界団体のWebや、国会議員・地方議員のSNSで追った方が、よほど効率良く見つけられ、また、精神衛生上もよいと感じています。

ニュースも、Webでの各報道機関のニュースで触れるほうがよほど良質です。

戦争のような激動の中では、マスコミは扇動やデマの温床になると言われます。今回は特にテレビがそうです。

stay homeでテレビ漬けは、害が大きいように思います。

情報の取捨選択のリテラシーが、生き残りに関わってくるほど、重要になっているように感じています。

閑話休題～お遍路満願～ 趣味の話少々。

昨年に、四国遍路(四国八十八箇所巡礼)を満願致しました。

自家用車での慌たしいお遍路でしたが、金剛杖に白衣・輪袈裟姿で経本を誦して回りました。

長年行きたかった四国遍路で、友人ら体調を悪くされている方の病氣平癒・厄災除け・繁栄を願い回りました。四国遍路のご本尊は、病氣平癒の薬師如来、災厄を除いてくれる観音菩薩で過半です。最近はやりのアマビエ様は見かけませんでした。

霊場巡りに目覚め、続いて、西国三十三箇所観音巡礼をはじめました。こちらは、現在26箇所まで回ったところです。

新西国三十三箇所も同時に回ることになりました。さらに、神仏霊場152箇所の寺社も平行して立ち寄るようにしています。

関東に仕事で行く機会も多いので、坂東三十三観音も回り始め、現在神奈川の9箇所を回ったところです。

最近、日本の名刹の伽藍・仏像・庭園・草木などが構築する豊かな空間と世界観を、背景も含めて理解し楽しむようになりました。

霊場を順に巡る道というのは、およそこれまで若いころドライブした行楽地巡りでは走ったことのないようなルートを次々走るようになります。昼食、夕食も、行程次第で思いつきのようにインターネットで探したり通りがかりで立ち寄り、わざわざ立ち寄ることのない地に実にアタリの店を見つけます。住職や奥様と話がはずむこともあります。

もともと旅行好きでしたが、関西圏だけでもこれほど自分の知らない世界が広がっていたことを毎回次々発見して感動しています。

いずれ劣らぬ贅沢な空間が味わえ、驚きの連続です。寺院一つ一つが美術館だと言ってもよいでしょう。各寺社に残る由緒、歴史的宝物、廃仏毀釈の傷跡、神宮寺の名残など、歴史的関心も刺戟されて尽きることはありません。

四国遍路も西国巡礼もずいぶん巡礼者が減っているそうで、コロナ以前から、概して閑静、あるいは閑散としていました。

コロナウイルスによる全国緊急事態宣言によって、寺社すら次々拝観中止に追い込まれているという状況です。

コロナウイルス問題が出てからこまかで、神社は「神頼み」で拝観者はそれなりにあるように思いましたが、寺院で、いわゆる観光寺院でないような、札所などの寺院は、病氣平癒で人が押しかけるとかと思いきや、ほとんど閑散としたままでした。

コロナウイルスでこれも拝観停止になっていきつつありますが、本来は心の支えになり、また心身を癒やされ心の健康維持にとって必要な空間です。

アマビエ様も心の支えになるならよいですが、寺社の清浄な空間に包まれながら手を合わせてころを落ち着かせて拝んだ方が自分には効かなさと思っていました。

それぞれの寺社が、たいへんな費用と手間をかけて、伽藍や庭園の手入れをされ、守り、後代に受け継いでおられるのがわかり、まことに頭が下がります。コロナ退散祈願をされているお寺もありました。

過疎化・少子化が進む中これだけのものを守って行かれてきたなか、コロナウイルスでその支え手が傷つけば、じわじわと打撃になっていきます。

また、美術館はじめ文化施設、音楽施設、劇場、分野を問わず美術・芸術・芸事・演芸関係に従事する膨大な方々が、営々と作り上げてきた文化活動を、持続可能なものとして維持しなければいけないのに、一体どうになってしまうのか。

書店や映画館も行けなくなれば出版・映像文化も大きな打撃を受けてしまいます。

このコロナウイルス問題で、私たちが支えていたはずの、人類にとっての心の豊かさが、失われかねない危機に直面しているようにも思われ、恐怖を隠せません。

みなさまのご多幸を

今回の事態は、だれもが経験したことのない事態であり、どうしてよいか、誰も正解を示せません。

世の中全体が殺気立って、苛立って、混乱しています。いや、世界中がそうなっているように思います。

でも、おそらく、はっきりしていることがいくつかあります。

自分の健康を守るのは自分であり、生活態度の積み重ねに現在があるということ。

コロナウイルス対策も、なにより不安を解消する努力が必要で、油断せず、合理的に調べて研究して、やるべきことをやって、それでも不確定要素は受け入れるしかないこと。

コロナウイルスの影響で産業構造の転換も少なからず起きると思われるものの、残るものは形を変えてでも残るし、自分がどう変わっていくかはひたすら考え続け調べ続けて自分で答えを見つけるしかないということ。

必ずなんとかかなるということ。

私は、なによりも、自分自身に、これを言い聞かせている毎日です。

そしてみなさまのご多幸といやさかを祈念して、一緒に笑い合える日を楽しみにしています。

今回の事務所報は、西村のみの執筆で、急遽、発行させていただくことと致しました。

大谷俊介弁護士、赤尾啓太弁護士、川井あかね弁護士も、それぞれが、日々の対応に追われる毎日です。

健康維持に心を配り、みなさまのお役に立てるコンサルティングと案件処理ができるよう、精進して参ります。

どうぞよろしく願いいたします。